

プレスリリース [2024 年 9 月 5 日]

(計 2 枚)

「地元のスポーツチーム」という強力なコンテンツが町田市を押し上げる！？ —多摩の「リーディングシティ」を目指し、住民アンケートを実施—

町田市未来づくり研究所（所長 市川宏雄）は、今年度『多摩の「リーディングシティ」を目指すための調査研究』を行っています。このたび、仮想ライバル市を想定し、ライバル市との差をあきらかにするために、町田市含む 12 市を対象に住民アンケート（各市のサンプル数は 500 程度）を実施しました。アンケート結果の概要は次のとおりです。

【 調 査 結 果 概 要 】

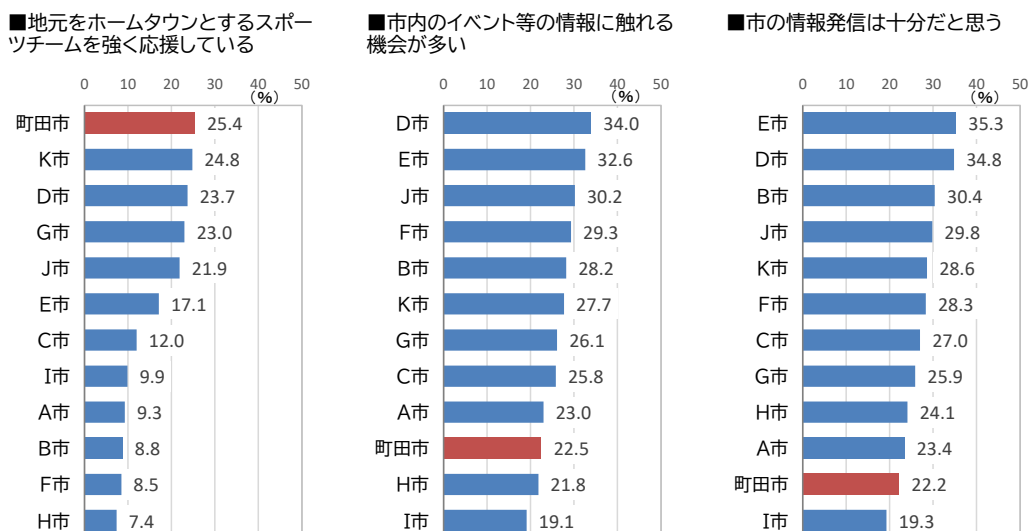
町田市が「多摩のリーディングシティ」を目指すテーマのうち、「休日のにぎわいに関するリーディングシティ」では、「地元をホームタウンとするスポーツチームを強く応援している」が 25.4%で仮想ライバル市の中で最も高い結果となり、町田市の強みであることがわかりました。しかし、「市内のイベント等の情報に触れる機会が多い」（最上位市よりも 11.5pt 低い）、「市の情報発信は十分だと思う」（最上位市よりも 13.1pt 低い）といった“情報発信”に関する評価は仮想ライバル市よりも低く、リーディングシティに向けた課題だと考えられます（アンケート結果は下表のとおり）。

このことから、「地元のスポーツチーム」という強力なコンテンツを活かした取組みを展開するとともに、このようなコンテンツを情報発信に活用していくことで、多摩のリーディングシティを目指す施策が期待できます。

町田市未来づくり研究所では、今回の調査結果を踏まえて、町田市が「多摩のリーディングシティ」を目指すための「課題の抽出」「課題解決に向けた先進自治体の成功要因の分析」「有識者ヒアリング」等を行い、2025 年 3 月ごろに具体的な施策を提案します。

■休日のにぎわいについて【全体】

（それぞれ 6 段階評価、「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した割合）



<参考>

【 調 査 の 概 要 】

1. 調査の背景・目的

町田市未来づくり研究所では、調査研究「Future Machida 2050」（2022 年 3 月）において、不確実な将来を予測するため市に起こり得る 4 つの未来シナリオを描きました。本調査では、予測される未来シナリオや、都市特性を客観的に評価した「JPC2023（森記念財団）」の厳しい結果などを踏まえ、町田市に必要な都市要素を調査・分析し、具体的な施策を提言することで、町田市を多摩の「リーディングシティ」に押し上げることをねらいとしています。

2. リーディングを目指すテーマの設定

- 働く女性の暮らしやすさに関するリーディングシティ
- 休日のにぎわいに関するリーディングシティ
- ビジネス集積に関するリーディングシティ
- 団地再生に関するリーディングシティ

3. 仮想ライバル市の設定

仮想ライバル市は、「JPC2023」の総合ランクが町田市よりも上位の市のうち、多摩エリアの市、人口規模が同規模で郊外型の市を抽出し、11 市を設定（五十音順：柏市、春日井市、吹田市、立川市、調布市、流山市、西宮市、八王子市、藤沢市、府中市、三鷹市）。

4. 住民アンケートの実施

町田市と仮想ライバル市の差をあきらかにするために、各市の住民を対象としたアンケートを実施しました。なお、アンケートの実施にあたり、町田市の若手職員（各部署から選出）によるワークショップを行いました。ワークショップでは、リーディングの方向性や重要となる指標の設定、その指標のランクアップにつながる評価軸を考え、調査項目に活用しました。



調査概要

- ・調査方法：インターネット調査
- ・調査時期：2024 年 6 月 20 日～6 月 28 日
- ・調査エリア：町田市および仮想ライバル市 11 市 計 12 市
- ・調査対象：各市に住む 20～69 歳の男女
- ・サンプル数：各市 500 サンプル程度（合計 6,000 サンプル程度）

※本調査の概要は、当研究所のホームページに記載しています。

<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/miraidukurikenkyujo/katudounaiyou/tamanoleadingcity/index.html>

■ 本件に関するお問い合わせ先

町田市未来づくり研究所（政策経営部企画政策課内）
政策研究担当課長 高田 TEL 042-724-2103